

桐蔭高等学校

実施日時	令和3年11月5日（金）14時10分～16時
参加者	生徒 高校1年280名、中学1年80名、 教員 高校14名、中学3名 計377名
実施内容	防災啓発シンポジウムへのWebによる参加、「防災ハンドブック」「防災ナビ」等を用いた学習

ねらい

11月5日「世界津波の日」にあわせ、津波防災の専門家の講演や県内の高校生等の事例発表を聴き、地震・津波の発生時における、緊急避難に対応できる力を身に付ける。

注. コロナ禍における防災スクールという点をふまえ、昨年に行ったような実践活動は控える。

主なプログラム

- 1 「濱口梧陵偉業顕彰シンポジウム」をWebにより視聴
- 2 リーフレット等を使用した、災害時の対応についての学習
- 3 感想、まとめの記入

概要

- 1 人と防災未来センター長・河田恵昭様による「濱口梧陵を世界の英雄にする！」の講演を視聴。郷土の英雄である濱口梧陵の偉業を知り、地震・津波に備える心構えを学んだ。



- 2 梧陵と学校、地域の関係を丁寧にまとめ上げた耐久高校生徒の発表を視聴。自分たちと同じ高校生が、非常に高い防災意識を有して自覚ある発言をする姿に聴き入っていた。
- 3 広川で学んだというソロモン諸島出身のユニタール（国連訓練調査研究所）研修生の Everlyn Fialakwa さんの英語による発表を視聴。和訳されたレジュメを一応配布したが、生徒達は英語の語りかけを傾聴し、避難訓練等の重要性について学んだ。

4 「防災ハンドブック」・「防災ナビ」などを活用し、災害発生時には自助・共助の意識をもって命を守る行動をすることの重要性を再確認した。

5 本日の学びや気づきについて感想を言語化し共有することで、先人の知恵に学びつつ、来たるべき有事への備えをより確かなものとする意識を高めた。



参加者感想文

- ・ 濱口梧陵が偉業を成し遂げたのは約200年前のことだけれど、その思いが語り継がれ、さまざまな活動や対策が行われていることに興味をもった。しかし、それがあまり世界に知られていないということも知り、残念に思うと共に、ユニタール研修生などの外国の方が体験され発信してくれることで世界中の防災意識が高まるはずだと感じた。
- ・ 今日の防災学習を通して、家族と今一度、避難場所や経路を確認しようと思った。災害はいつどこで起こるかわからないからこそ、日頃から具体的な備えが大切だ。
- ・ 津波の知識がない時代にも関わらず、先駆けて自助・公助・共助のかたちを作り、多くの人を救う体制を整えた濱口梧陵の功績を改めて理解した。よって、災害時には自分だけが助かろうとするのではなく、避難が困難な高齢者や子供の助けなどを積極的に行っていきたいと思う。
- ・ 日頃からの防災に対する高い意識はもちろん、災害時には、的確な判断をして迅速に行動する能力・技術やリーダーシップが重要で、それらが人の命を救う大きな要因になると実感した。

成果と課題

【成果】

コロナ禍における防災スクールという点をふまえ、昨年に行ったような実践活動は控えたが、「世界津波の日」にあわせ、津波防災の専門家の講演や県内の高校生等の事例発表を聴き、また「防災ハンドブック」・「防災ナビ」を活用することで、災害発生時には自助・共助の意識をもって命を守る行動をすることの重要性を再確認できた。

【課題】

このコロナ禍がなかなか収束しないならば、今後はやはり「コロナ禍においても災害は起きる」という点をふまえ、感染症対策を徹底しながらの実践的な防災スクールを実施する必要がある。また、自助・公助・共助について理解を深め、将来の避難率先者の育成を図るべく、地域の方々との連携した活動も検討していきたい。